事業報告概要書（公表版）

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都立動物園グループ	（指定管理者名）公益財団法人東京動物園協会 （団体の概要）昭和23年設立。動物園及び水族園事業の発展振興をはかり、併せて動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献する。
指定期間	
上野・多摩・井の頭　H28.4.1～R8.3.31（10年間）	
葛西　R5.4.1～R8.3.31（3年間）	

2　施設名

恩賜上野動物園
多摩動物公園
葛西臨海水族園
井の頭自然文化園

3　収支(単位:千円)

項目		令和７年度 金額	令和６年度 金額	令和５年度 金額
収入　計		7,884,415	7,435,499	7,025,547
内訳	指定管理料	7,883,440	7,435,278	7,024,115
内訳	利用料金			
内訳	その他収入	975	221	1,432
支出　計		7,848,874	7,494,931	7,123,331
収支差		35,541	△59,432	△97,784

公園別支出額

上野動物園　：2,773,347
多摩動物公園　：2,308,621
葛西臨海水族園　：1,928,016
井の頭自然文化園：838,890

4　管理運営の概要

当協会は、以下の３つの基本的な考え方に基づき、都立動物園・水族園の管理運営を適切かつ円滑に行った。
①展示の工夫と快適な観覧環境の提供による「楽しみながら学べる動物園・水族園」の実現
②国内外の関係組織との協力による野生生物の保全への貢献
③公益性と経営感覚を合わせ持った施設運営

5　管理状況

①維持管理

動物園・水族園の運営を適正に維持継続するため、施設の維持管理を適切に行った。
(1) 施設の点検と保全：日常の施設点検や総務部職員による来園者の目線に立った施設総合点検などに基づく計画的な補修や緊急的な対応により、各園を適正に運営することができた。
(2) 園内植物の維持管理と活用：ボランティアと協働して園内植物の維持に取り組んだほか、園内装飾や、園内の樹木をめぐるガイドツアー等の教育普及活動、飼育動物へのエサなど、資源として積極的に活用することで、基本的な樹林地管理だけでなく、園の魅力アップや資源の有効活用に努めた。
(3) 自然災害への対応：「気象災害対策計画」を定め、緊急時の連絡・待機態勢を整えた。
(4) 省エネ化への対応：空調設備更新時に省エネルギー性能の高い機器を選定するなど、機械設備を省エネ性能に配慮して更新した。
(5) 施設補修：園路やデッキの補修、設備の更新等を通じてアクセシビリティや利便性を向上させた。
(6) 東京都工事への対応：都の大型工事による飼育環境の変化に応じた施設補修を行うなど、事業が円滑に進むよう調整・協力するとともに、飼育環境の維持に務めた。
(7) 動物舎等の維持補修：老朽化した施設を予防保全の見地から計画的に補修することで、効率的かつ効果的な維持管理を行った。

②利用者への対応

(1) 魅力ある展示：高所の食物を食べるキリンが野生本来の採食行動を発現できるよう考慮した給餌器の設置（上野）、リニューアルしたサバンナエリアでのキリン、シロオリックス、ペリカン、グレビーシマウマの混合展示（多摩）、「干潟の浄化」水槽のオープン（葛西）、水生物館展示水槽における生息環境を再現した展示（井の頭）など、４園でより魅力的な展示の実現に努めた。
(2) 教育普及事業：教育普及センターが中心となりながら４園が連携して教育普及事業を展開したほか、学校教員へのヒアリング等に基づくプログラムの改善や教材の共同開発などにより学校教育と都立動物園・水族園の教育普及事業との連携を強固なものとした。また、４園で障がいのある子どもとその家族を招待する「ドリームナイト＆イブニング」を開催し、来園者に合わせた教育普及プログラムを展開するなど、ソーシャルインクルージョンの取組を推進した。
(3) 入園者誘致の取組：ゴールデンウィークの時間延長のほか、夏季の夜間開園（多摩・葛西）や秋の３時間延長（上野・井の頭）を行い、需要に合わせて効果的に入園者数の増加を図った。また、第２次都立動物園マスタープランに基づくVisit Zoo事業（冬の閑散期における周遊企画等）の展開や、SNS等を活用した戦略的な広告宣伝、エコプロ等外部でのブース出展を通じた利用促進、若手職員を中心としたサービス向上につながる施策の企画・展開、訪日外国人旅行者向けの広告掲出など、入園者数増に向けた取組を推進した。
(4) 来園者に寄り添った接遇の取組：案内接遇職員の能力向上を図るため４園で英語研修や接遇研修を行うとともに、関連資格の取得を推進した。また、園内でひと涼みできる場所等を紹介する「ひんやりZOOスポット」（４園）や過去の状況から園内の混雑状況を予想した「混雑予想カレンダー」（葛西）等の発信、音声翻訳表示ディスプレイの導入などにより、質の高いサービスの提供に努めた。
(5) 危機管理対策：初動対応計画に基づき、所管警察署や消防署と連携して震災対策訓練やテロ対策訓練を実施し、災害時等の対応力向上を図った。また「降灰対策計画書」を策定し、大規模噴火による降灰に対する備えを一層充実させた。情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ対応基準に基づき自己点検や研修等を定期的に実施することで、職員全員の情報セキュリティに対する意識を高め、管理水準の組織的な向上を図った。

6　利用者アンケート結果

実施方法：来園者にＱＲコードを提示しWEBアンケートサイトで回答していただく。※４段階評価

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
恩賜上野動物園	3.6	3.6	3.5	3.5	3.6
多摩動物公園	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7
葛西臨海水族園	3.7	3.6	3.7	3.5	3.7
井の頭自然文化園	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7

7　入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
恩賜上野動物園	3,387,959	パンダの返還に関連したイベント等の実施により利用を促進し、前年度比増（+0.8％）となった。
多摩動物公園	859,715	天候不良や酷暑の影響もあったが、夜間開園等の実施により、前年度と同程度となった。
葛西臨海水族園	1,341,639	周遊企画や地域連携イベントなどの実施により利用を促進し、前年度比増（+1.0％）となった。
井の頭自然文化園	674,621	各種イベント等により利用促進を図ったが、酷暑等の影響もあり、前年度比減（-4.2％）となった。
合　計	6,263,934	

恩賜上野動物園 Ueno Zoological Gardens

目指す姿

様々な動物の魅力的な展示を通して、野生生物保全の重要性を国内外へ発信する動物園

◎ 野生動物に関する多様な情報発信の拠点
◎ 動物の多様な魅力を伝える展示の改善
◎ 誰もが利用しやすい観覧環境の充実

野生生物保全　希少種の域外保全に貢献する顕著な成果

- 東京都環境局と締結した「オガサワカワラヒワ生息域外保全事業に関する協定書」に基づき、職員を小笠原諸島に派遣しオガサワラカワラヒワの生息域外保全事業を支援したことで、**小笠原諸島において世界初となる繁殖及び成育に貢献**した。また、令和７年３月に小笠原諸島から**オガサワラカワラヒワを受け入れ、動物園として初めて繁殖及び成育に成功**した。
- その他、２年連続となるコビトカバをはじめ、スマトラトラ、シロテテナガザルなど、第２次ズーストック種と保全プロジェクト対象種11種の繁殖に成功した。

世界初動物園初　オガサワラカワラヒワの繁殖及び成育に成功！

絶滅が危ぶまれている小笠原諸島の固有鳥類であるオガサワラカワラヒワの保全に貢献するため、本土に生息する近縁の亜種であるカワラヒワを導入し、飼育繁殖技術の確立に努めてきた。

今回の小笠原諸島及び上野動物園での繁殖・成育の成功は、これまで積み重ねてきた飼育繁殖技術の賜物であり、オガサワラカワラヒワの域外保全に大きく貢献した。

オガサワラカワラヒワ
子育ての様子

２年連続　コビトカバの繁殖に成功！

令和５年にブリーディングローンによりオス個体の貸与を受け、繁殖に取り組んできた。令和６年６月に繁殖のため同居させたところ交尾が確認され、令和７年12月に出産した。

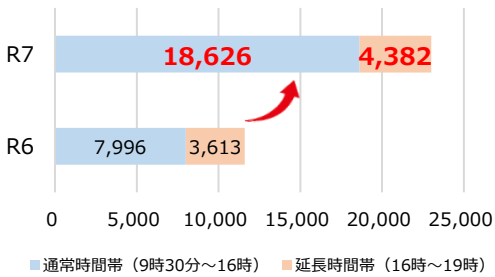
上野動物園におけるコビトカバの繁殖は２年連続であり、希少種の域外保全に大きく貢献した。

コビトカバ母子

動物園の魅力向上　開園時間延長を秋に移行し、賑わいを創出 「秋の夜の動物園」

- 夏季の酷暑やお盆期間の来園需要、来園者と動物の負担を踏まえて、夜間開園を10月に移行し、「いろいろな秋」をテーマに動物の魅力的な姿や行動を様々な視点から紹介するトークイベントや、夜の雰囲気を感じながら動物の様子を観察できる「ナイトビバリウム」などを開催した。
- **期間中の１日の平均入園者数は、通常時間帯・延長時間帯ともに昨年度を上回った**ほか、アンケート（n=676）では総合的な満足度として88.9%が満足と回答するとともに、**夏から秋への開催時期の変更についても85.4%が「秋になって良かった」と回答**したことから、開催時期の移行は来園者の満足度向上に効果があった。

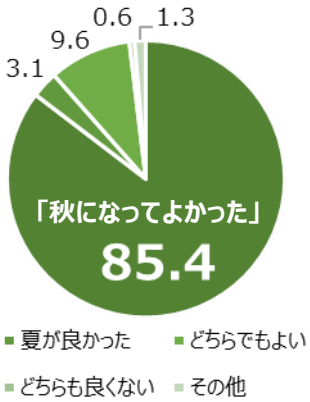
時間帯別平均入園者数



通常時間帯の平均入園者数　**昨年度比 2.3倍！**
延長時間帯の平均入園者数　**昨年度比 1.2倍！**

※R6は６日間開催、R7は４日間開催

開催時期の変更に関するアンケート結果



様々なイベントを実施

比較的過ごしやすい気温の中、
様々なイベントを楽しんでいただいた

飼育係と学ぼう！―これで君も動物博士―

飼育に関する高度な技術の確保　キリンへの麻酔及び過長蹄処置の成功と飼育技術の更なる発展

- 蹄が伸びすぎて状態が悪化していたキリンについて、**国際的なキリンの専門家チームを招聘し、**キリンへの麻酔と蹄の処置に関する技術的な指導を受け、**無事に処置を成功**させた。
- 治療により動物のアニマルウェルフェアを向上させるとともに、**４園全ての獣医師や関係機関の専門家など約60人が処置に参加したことで、飼育技術の更なる発展に寄与**した。
- また、**台湾で開催された「2025 Taiwan Giraffe Care Workshop」に参加**し、アジアにおけるキリンのフットケア、麻酔、予防医学などの情報交換等を行い、**最新の知見を収集したほか、今回の麻酔の症例について報告**した。

キリンへの麻酔と削蹄の様子

都との連携　都からの要請への協力、整備工事を契機とした普及啓発活動

- 東京2025デフリンピックの開催に伴う「オールウェルカムTOKYO」への協力として、日本手話言語通訳付き動物ガイドの実施や手話通訳付きPR動画の放映といった聴覚障がい者を対象としたおもてなしの取組を実施したほか、**五重塔は、都の整備工事に先立ち暫定的な整備を進める**など、都からの要請に適切に対応した。
- また、サル山の整備工事を契機として、施設の歴史や関連資料を掲載したパネル展示を実施するとともに、サル山では展示終了後の場内や内部に立ち入ることができる見学ツアーを実施したほか、バードハウス・バードケージの整備工事に伴う閉館に際しては、展示終了となる鳥類の写真や関連資料のパネル展示を実施するなど、**都の政策と連動して普及啓発活動に取り組むことで、動物園の魅力向上に貢献**した。

都からの要請への協力

日本手話言語通訳付き
動物ガイドの実施

五重塔の開放に向けた
暫定的な整備の協力

整備工事を契機とした普及啓発活動の展開

サル山の整備工事を契機とした
「さよならサル山、見学ツアー」の実施

バードハウスの整備工事を契機とした
「ありがとう、バードハウス展」の実施

動物園の緑を知り、ふれあう機会の創出　園内樹木等の適切な維持管理と資源としての活用

- 年間を通して園内の樹木等を適切に維持管理しただけでなく、植物にまつわるワークショップやガイドツアーを実施するなど、**園内の緑を教育普及のための資源として活用**した。
- 園内に自生する植物を使用したハーバリウムの製作体験イベントでは、参加者自身で植物を選んでレイアウトするという製作体験を通じて、園内の植物に興味を持ってもらうきっかけを提供することができた。　※ハーバリウム：植物素材を保存用のオイルと一緒に瓶などに入れ、観察できるようにしたもの
- また、国際生物多様性の日に合わせて、園内で発生した丸太等の廃材等を活用して虫たちの住みかとなる構造物「BUG HOTEL」を作成・設置し、解説パネルやＸで紹介することで、野生の生き物も過ごしやすい環境づくりに取り組んでいることを効果的に発信することができた。

植物にまつわるワークショップやガイドツアーの実施

ハーバリウム・ワークショップ

ガイドツアー「草木と花と冬支度」

国際生物多様性の日に合わせた取組

虫たちの住みかとなる構造物「BUG HOTEL」の作成とXでの情報発信

多摩動物公園 Tama Zoological Park

目指す姿

多摩丘陵の自然を活用し、ダイナミックな展示と野生動物の繁殖を推進する動物園

◎ 豊かな自然を活かした生息環境の再現
◎ 野生動物の繁殖基地としての機能充実
◎ 野生生物保全センターでの保全の推進

野生生物保全　野生生物保全プロジェクトの推進と希少種の域外保全への貢献

- コアラの暮らす森再生を目指した域内保全活動を支援するため、10月に「Action for KOALA みんなで守ろう！コアラとコアラのくらす森」を開催し、野生のコアラの現状等を紹介するパネル展・スペシャルトークのほか、コアラが食べたユーカリの廃材を活用したクラフトワークショップなどのイベントを実施した。期間中は**オーストラレーシア動物園協会（ZAA）に寄付するための募金活動も実施し**、目標であった10万円を上回る**100,523円の募金を集めたことで、コアラの暮らす森再生を目指した域内保全活動を支援することができた。**
- その他、５年ぶりとなるオランウータンをはじめ、チンパンジー等の第２次ズーストック種及び保全プロジェクト対象種13種の繁殖に成功した。

東京動物園協会の 野生生物保全プロジェクト

「第２次都立動物園マスタープラン」「第２次ズーストック計画」における保全の包括的な実現のため、域内・連携・研究・普及の４つのカテゴリーに区分して、長期的に自然の生息地で個体群を確保するためのプロジェクト

域内	身近な自然の調査、環境整備　等
連携	環境省の保護増殖事業への参画　等
研究	生態解明、技術開発　等
普及	イベント、展示改善　等

Action for KOALA みんなで守ろう！コアラとコアラのくらす森

連携　コアラの暮らす森再生を目指した域内保全活動の支援

ユーカリの木に葉っぱを生やそう！
～現地へ支援を届けよう～

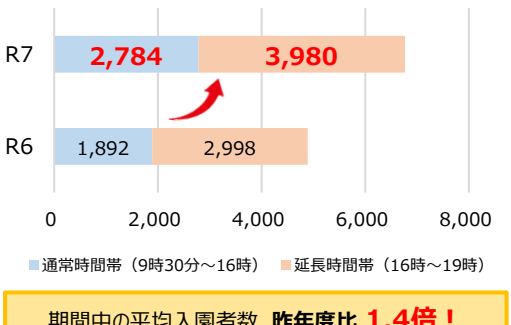
クラフトワークショップ

ユーカリ温室見学ツアー

広報・PR　夜間開園と４園周遊企画による動物園のPR

- 夜間開園イベント「サマーナイト」において、近隣自治体の小学校へのチラシの配布を強化したことで、小学生以下の１日の平均入園者数が昨年度比1.2倍（2,270名）となったほか、SNSを活用した広告宣伝等により**期間中の平均入園者数は昨年度比1.4倍（6,764名）と過去最高を記録**した。
- また、Visit Zoo事業の４園周遊企画として、既存のファンに加えて若い世代を取り込むため、**都立動物園・水族園で初めて謎解きイベントを実施**した。**20・30代の参加者は昨年度の周遊企画より1.6倍の45%**となったほか、全体の参加者は昨年度比1.7倍の13,506人となるなど、**グループ全体での統一的な取組を通じて、新規層に対する都立動物園・水族園の魅力の発信に努めた。**

夜間開園イベント「サマーナイト」



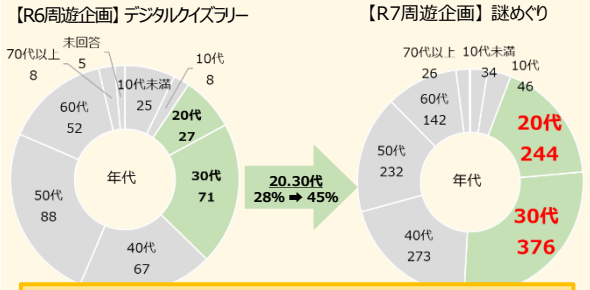
期間中の平均入園者数　**昨年度比 1.4倍！**

※R6は６日間開催、R7は７日間開催

冬の周遊キャンペーン 都立動物園・水族園 謎めぐり

メインビジュアル

【周遊企画への参加者の年代】

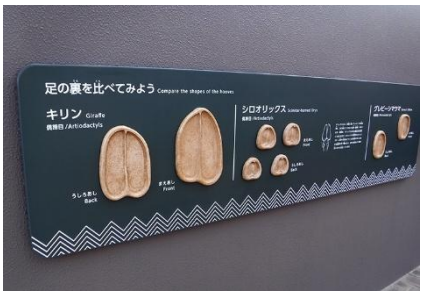


20・30代の参加者数　**昨年度比 1.6倍！**

都との連携　都からの要請への協力による動物園の魅力向上

- サバンナエリアのリニューアルにおいては、**協会がこれまで培ったノウハウを活かして展示のコンセプトづくりやサイン類の作成などに協力**し、動物の実物大シルエットや実際に触ってかたちを知ることができる足跡紹介パネルなどが設置されるなど、**展示施設の魅力向上に貢献**した。
- また、東京の自然の多様性や、身近にある生きものの世界を知ってもらうための体験型展示イベント「デジタルでみる東京自然いきもの展」に協力し、企画に連動したパネル展示を園内各所で行うなど、都からの要請に適切に対応した。

都が整備するサイン類への協力



足の裏のかたちを知ることができるハンズオン

キリンの首の長さなどを近くで実感することができる動物の実物大シルエット

デジタルでみる東京自然いきもの展への協力

企画に連動したパネル展示を実施

防災への配慮　自衛消防隊の活動と「降灰対策計画書」の策定による災害対応力の強化

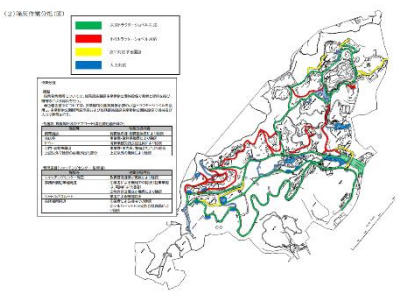
- 自衛消防隊を編成し毎月放水訓練等を実施するとともに、日野消防署主催の審査会に参加して地震発生時の初動対応や避難誘導、消火器・屋内消火栓の操作などを実践したことで、災害対応力を向上させた。また、昨年度発生した**隣地火災への自衛消防隊等の初期消火の貢献**に対しては、**２月に東京都職員表彰（知事賞）を受けた。**
- 東京都が令和７年５月に「東京都地域防災計画火山編（令和７年修正）」を公表したことを受け、**都立動物園・水族園における降灰時の課題の抽出及び具体的な対策の検討を進め、令和８年３月に「降灰対策計画書」を定めた**ことで、大規模噴火による降灰に対する備えを一層充実させ、都立動物園・水族園内の安全・安心の確保に寄与することができた。

自衛消防隊の活動

日野消防署主催の審査会へ参加し
災害対応力を向上

隣地火災への初期消火の貢献について
東京都職員表彰（知事賞）を受賞

「降灰対策計画書」の策定



除灰作業箇所や分担などを明確にし
有事の際は速やかに対処できる体制を整備

自主事業による利用者サービスの向上　電動カートの導入による来園者サービスの向上

- 「園内の移動が容易にできるようにしてほしい」などの来園者の声にお応えし、**自主事業として高齢者等に電動カートを貸し出す新たなサービスを3月1日より試行導入**した。
- 電動カートの3月の貸出率（開園日のうち1件以上貸出があった日の割合）は90%超となるなど、起伏の多い園内を移動する負荷を軽減し、来園者サービスの向上につながった。

利用の様子

井の頭自然文化園 Inokashira Park Zoo

目指す姿

いつでも気軽に楽しめ、充実したふれあい体験を通じ、野生動物を守る心を育む動物園

◎ メダカからツシマヤマネコまで日本産動物の保全と普及啓発の拠点
◎ 動物を身近に感じる教育プログラムの充実
◎ 美術や音楽などの文化も楽しめる魅力的な施設運営

彫刻園と彫刻園を活用した動物園の魅力向上　様々なイベントの実施と彫刻園収蔵作品の公開による魅力向上の取組

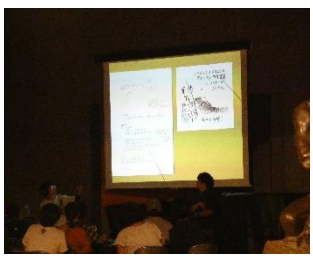
- 北村西望が様々な時代に作った動物の彫刻を展示した彫刻園企画展「西望アニマルズ」や、「Art and the Zoo」の第９弾として開催した絵本作家・アヤ井アキコ氏による作品『こうもり』の原画展及び関連イベント、武蔵野美術大学との協働による彫刻園を活用する企画など、**関係機関等と連携しながら彫刻園の活用を推進し、芸術と動物を関連付けた企画を多数実施したことで、彫刻園及び井の頭自然文化園の魅力向上に努めた。**
- また、**新たに公式ホームページ上で彫刻園の紹介ページと彫刻園の収蔵作品を公開**し、来園せずとも彫刻園の収蔵作品が鑑賞できるようになるなど、**彫刻園の魅力の発信に取り組んだ。**

彫刻園を活用したイベントや、芸術と動物を関連付けた企画の実施により、彫刻園及び井の頭自然文化園の魅力を向上！

彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.9「アヤ井アキコ 絵本『こうもり』原画展」及び関連イベント

アヤ井アキコ
絵本『こうもり』原画展

サテライト展示
絵本『こうもり』ができるまで



飼育係×アーティスト
コウモリトークカフェ＆観察会

収蔵作品を活用した企画展の実施

北村西望が様々な時代に作った
動物の彫刻約30点を展示「西望アニマルズ」

「秋の夜長の自然文化園」に関連したイベントの展開

彫刻ガイド「夜の彫刻園を楽しもう！」

彫刻ライトアップ

彫刻園学芸員→飼育係リレートーク
「コウモリもりもりてんこもりナイト！
絵本『こうもり』から生態のお話・観察まで」

秋の夜長のやさしい時間
心つなぐコンサート

特定の日にちなんだガイドツアーの実施

【開園記念イベント】
彫刻園学芸員による彫刻園歴史ガイド

【お正月イベント】
午年スペシャル 西望さんの馬彫刻めぐり

武蔵野美術大学との連携企画

ちょうこくのたまご 彫刻をもっと楽しむための
ワークショップと鑑賞プログラム」ムサビ芸文
in 井の頭自然文化園 彫刻園をたのしもう！

彫刻園収蔵作品の公式ホームページでの公開

北村西望　主な収蔵作品

平和祈念像 石膏原型

動物園の緑を知り、ふれあう機会の創出　園内樹木等の適切な維持管理と資源としての活用

- 年間を通して園内の樹木等を適切に維持管理しただけでなく、**園内装飾や植物にまつわるガイドツアー等の教育普及活動、飼育動物へのエサの資源として活用**した。
- 「地球にやさしく心あたたまる、冬のかざりつけプロジェクト2025」では、園内の植物や身近な自然素材を使用して、リースやオーナメントなどの冬を彩る飾りつけを行い、閑散期においても魅力的な園内環境づくりに努めた。
- また、農園芸職員による園内の樹木等を紹介するガイドや園内の植物を活用したワークショップを実施したほか、園内で育てた菜の花をモルモット等のエサとして提供しその様子のＸで発信するなど、都民に対して動物園の緑を知り、ふれあう機会を創出した。

園内の植物や身近な自然素材を使用した園内の飾りつけ

地球にやさしく心あたたまる、冬のかざりつけプロジェクト2025

園内の樹木等を紹介するガイド

ガイドツアー「お正月飾りと冬支度」

飼育動物のエサとしての利用と情報発信

野生生物の保全　野生生物保全プロジェクトの推進と希少種の域外保全活動への技術的支援

- 絶滅が危惧されるシロハラサギの保全について、生息地のブータン王立自然保護協会関係者が来日し、シロハラサギの飼育下個体群維持に向けた技術開発に関する研修を実施した。
- また、１月に職員をブータンに派遣し、鳥類飼育繁殖、獣医臨床、餌生物の維持管理について技術的支援を行うことで、**希少種保全に関わる国外関係機関との連携・協力体制を強化するとともに、シロハラサギの個体群維持に貢献**した。

東京動物園協会の 野生生物保全プロジェクト　**連携**　ブータンにおけるシロハラサギ生息域外保全への技術的支援

ブータンでの技術的支援

広報・PR　広報・PRの取組

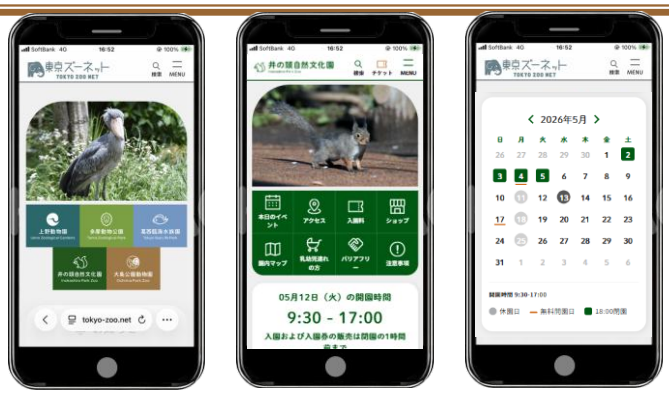
夜間開園「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」のPR

- 吉祥寺駅や観光案内所への広告掲出、SNSを活用した広告宣伝などにより、夜間開園イベント「秋の夜長の動物園」の**延長時間帯の入園率は昨年度比1.36倍（37.3%）**となった。

吉祥寺駅への広告掲出

都立動物園・水族園 公式ホームページ全面リニューアル

- **都立動物園・水族園の公式ホームページ「東京ズーネット」を全面リニューアルした。**モバイル端末への最適化、利用者が求める情報に到達しやすいページ設計、多言語対応のさらなる充実、タイムリーな情報更新が可能なシステムの導入等により、**利便性を大幅に向上**させることができた。



公式ホームページを全面リニューアルし、
モバイル端末への最適化等により利便性を向上

葛西臨海水族園 Tokyo Sea Life Park

目指す姿

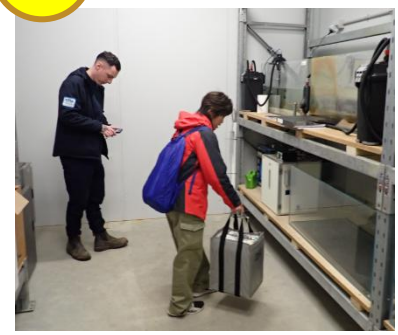
「生態」から「食育」まで楽しく学べる水族館

◎ 東京湾から外洋、世界各地の海の生態をいきいきと再現する展示
◎ 海と人とのつながりを情報発信
◎ 海洋生物研究の拠点

飼育技術の発展・継承　世界初となるフェアリーペンギンの卵の輸送とミナミイワトビペンギンの人工繁殖研究の表彰

- 生物多様性の保全に貢献するため、**オーストラレーシア動物園協会（ZAA）と協力し、世界で初めてフェアリーペンギンの有精卵の輸送を実施**した。生体を輸送しないため、動物に長距離移動の負担をかけずに海外から新たな血統を導入することでき、**国内飼育個体群の遺伝的な多様性の維持に貢献**することができた。
- また、海遊館と共同で取り組んでいる**ミナミイワトビペンギンの人工繁殖研究を継続**し、今年度は葛西臨海水族園で飼育している雌に海遊館で採取した凍結精液を注入した。精液の凍結保存の改善や人工孵卵条件の探索により、人工繁殖の成功率を向上させ、個体の移動やペア替えをすることなく遺伝的に配慮した子孫を残すことができる可能性があり、**この取組が評価され、JAZA（日本動物園水族館協会）の古賀賞や東京都職員表彰（知事賞）を受けた。**

世界初　フェアリーペンギンの有精卵の輸送



携帯用孵卵器で輸送し、葛西の孵卵器へ

ミナミイワトビペンギン人工繁殖研究の表彰

JAZA（日本動物園水族館協会）
古賀賞

東京都職員表彰（知事賞）

誰もが利用しやすい水族園づくり　ソーシャルインクルージョンの取組の推進

- 誰もが使いやすい水族園づくりの一環として、障がい等により水族園を訪れる機会が少ない子どもとそのご家族に楽しいひとときを過ごしてもらう「ドリームナイト＆イブニング」を事前募集制で開催し、703人が参加した。
- イベント当日はカームダウンスペースの増設に加えて、**新たに大人用おむつ交換所の設置やイヤーマフの貸し出しなどを行うなど、よりきめ細やかな対応を行った。**
- また、感覚過敏を持つ方々に安心して過ごしていただくための取組として、館内BGMや緊急以外の放送の停止、機械等の使用中止などを行う**「クワイエットアワー」を新たに試行するなど、ソーシャルインクルージョンの取組を推進**した。

ドリームナイト＆イブニングによるソーシャルインクルージョンの取組

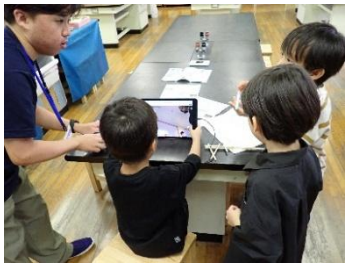
来園者一人ひとりの特性に合わせて対応

カームダウンスペースの増設

大人用おむつ交換所の設置や、イヤーマフ等のセンサリーグッズの貸し出し

教育機関との連携・先端技術の活用　臨海小学校へのブース出展及び遠隔操作ロボットによる展示水槽の中継

- 地域の教育機関と連携し、江戸川区立臨海小学校の学園祭において初めて遠隔操作ロボットを用いたブース出展を行った。
- 小学校と葛西臨海水族園の「東京の海」エリアを中継でつなぎ、遠隔操作ロボットにより水槽の様々な生き物を観察し生態等を学ぶことができるプログラムを実施し、40名の参加者を得るなど、**先端技術の活用と学校教育と連携した教育普及活動を推進**した。



水族園(左)の遠隔操作ロボットを小学校(右)で操作し、生き物を観察

地域連携　若手職員を中心としたPMC活動の展開と葛西臨海公園との連携「ルミナスかさりんー冬の光の水族園ー」

- 若手職員を中心とした「Proactive Marketing Challenge（PMC）」を組織し、マーケティングを切り口として各園の課題解決に取り組んだ。
- 葛西臨海水族園では、冬季に入園者が減少すること、大観覧車割引の利用率が少ないこと、事前のアンケート結果で特に20代が水族館に関心が少なかったことを踏まえ、**葛西臨海公園の「ダイヤと花の大観覧車」と連携し、"光"をテーマに「ガラスドーム×大観覧車のライトアップ」等のイベントを実施することで閑散期の入園者数増と若年層の認知拡大を図った。**
- イベント期間中の入園者数は106,236人となり、直近３年間の同期間と比較して最も高い数値を記録したとともに、**大観覧車に乗車して水族園へ来園した人の割合は、昨年度と比べて1.8倍の5.7%**となるなど、**葛西臨海公園と連携したイベントの実施により、地域価値の向上に貢献**した。

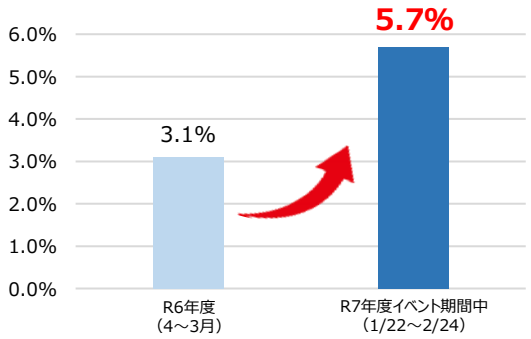
「光」をテーマにした冬のイベントと効果的なプロモーションの展開

ガラスドーム×大観覧車のライトアップ

大観覧車相互割引PR

影絵で楽しむ海の世界

大観覧車に乗車し、水族園へ来園した割合



昨年度と比べ 1.8倍！

要望への適切な対応　レクチャールームの開放による来園者サービスの向上

- 「園内の休憩スペースを増やしてほしい」「幼児を休ませる場所がほしい」などの来園者の声にお応えし、レクチャールームの土日祝日の空き時間を来園者に開放するとともに、レクチャールーム内に椅子と幼児用のクッションマットを設置した。
- お子様連れのご家族を中心にクッションマットの利用が見られるなど、来園者の利用ニーズに対応することができた。

幼児も休むことができるよう、レクチャールーム前方に4m×2mのクッションマットを設置